

第5章 関連文化財群

1. 関連文化財群のテーマの設定

(1) 基本的な考え方

関連文化財群とは、有形・無形、指定・未指定に関わらず、地域に存在している様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づいて一定のまとまりとして設定するものである。これまで個別に認識されてきた文化財を、地域の歴史文化を物語る「群」として捉え直し、一体的かつ総合的に保存・活用していくことは、個々の文化財の価値をさらに高め、地域の魅力を発信し、まちづくりに貢献していくことが可能となる。

長い歴史を有している多久市には、時代ごとの歴史文化、さらに時代を超えて現在まで維持・継承されている文化遺産のうち、以下の条件に適合する文化財のまとまりを関連文化財群として設定する。

- ・共通のテーマを有していること。
- ・多久の歴史文化を物語るストーリー性があること。
- ・市民が文化財群を再認識でき誇りとして思えること。
- ・文化財群の保存・活用が多久のまちづくりに寄与すると想定できること

治 政：各時代の統治者の政策と国内の情勢
 文化・教育：信仰を基にした文化や教育
 自然・資源：生活や産業基盤となる地勢や資源
 流通・産業：産業の発展と人と物の流れ
 生 活：住居と人口の増減

資料 5-1 テーマ設定のための主な項目と時代区分

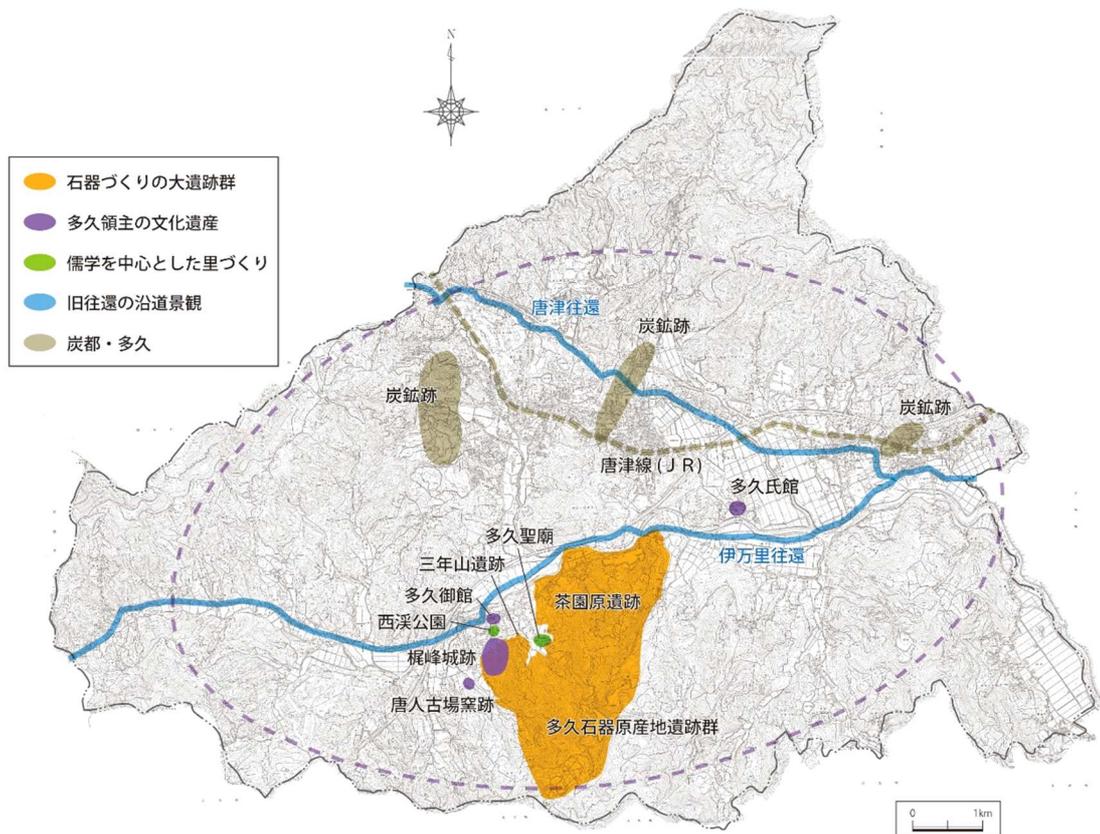
時代区分		治政	文化・教育	自然・資源	流通・産業	生活
原始	旧石器時代 (1万2千年以上前)			サヌカイトによる 大型尖頭器の製作	他地域でも尖頭器が 利用された	人々の居住の 始まり
	縄文・弥生時代 (1万2千年前～3世紀)	有力者の出現				
	古墳時代 (4世紀～7世紀)	古墳の築造				
古代	飛鳥～平安時代 (7世紀～11世紀)		末法思想の影響 行基による寺院の 建立	河川	条里制 米作 古代の官道 河川をつかった運搬	
中世	鎌倉時代 (12～13世紀)	津久井宗直の多久下 向、前多久氏の統治 の始まり	多久氏による神社 の創建始まる			
	室町時代 (14～16世紀後半)	前多久氏の追放 後多久氏の統治				
	安土桃山時代 (16世紀後半)	秀吉による領土安堵	多久氏による文化 人の保護		太閤行軍	
近世	江戸時代 (17～19世紀前半)	多久氏、佐賀本藩を 補佐して領地経営	多久茂文、聖廟及 び東原庠舎を創建		唐津往還、伊万里 往還と駅・宿の整備 石炭出土	くど造り民家 商家 武家屋敷
近現代	明治時代 (1868～1912年)	版籍奉還と村の誕生	学制による東原 庠舎の閉鎖	石炭	炭鉱経営 石炭運搬のため鉄道 の開通	
	大正時代 (1912～1926年)				炭鉱経営に大手参入	
	昭和時代 (1926～1989年)	5つの町村が合併、 多久市の発足			炭都・多久の成立と その後の閉山	人口の流入 人口減始まり
	平成時代 (1989～)		聖廟の修復と積菜 の継承			人口微減が 続く

(2) 関連文化財群の5つのテーマ

多久市の関連文化財群として、以下の5テーマを設定する。

資料 5-2 ストーリー・文化財など

テーマ名	ストーリー	構成する主な文化財	周辺環境など
石器づくりの大遺跡群 旧石器時代	安山岩を加工した大型尖頭器の一大生産地である旧石器～縄文時代の遺跡群が発見された。	遺跡 出土品 石材	立地環境 郷土資料館 多久市収蔵施設
多久領主の文化遺産 鎌倉時代～明治初期	多久氏(前多久、後多久)は計 680 年間、この地を統治し領民に多大な影響を与え、その政治・文化施策による多くの文化遺産が存在している。	神社 寺院 城郭跡 武家屋敷 館と城下 往還 文書資料 石造物 郷土芸能 祭り 伝説	歴代の多久氏の事跡 立地環境 郷土資料館 他
儒学を中心とした 里づくり 江戸時代中期～現代	後多久 4 代領主茂文による儒学に基づく文教の里づくり。孔子の教えは、現在にも継承されており、中核をなす聖廟は多久市の象徴となる。	廟 小中学校 祭り 伝説 文書等資料	多久茂文 輩出された人材 立地環境 観光施設 他
旧往還の沿道景観 主に江戸時代～現代	古代の官道から発展し、江戸時代には宿・駅が設けられ整備された唐津往還、伊万里往還の沿道には、伝統的な民家などによる独特の景観をもつ。	往還 農家 商家 堂 石造物 農地 番所跡 伝説	立地環境 民家 農地 山林 整備された施設 他
炭都・多久 江戸時代後期～昭和 40 年代	江戸時代後期から採掘された多久の石炭。昭和時代の最盛期、炭都・多久と呼ばれ一大供給地となったが、昭和 47 年に最後の炭鉱が閉山した。石炭産業は、近代多久に大きな貢献を果たした。	炭鉱関連施設 寺院 まちづくり(道路・鉄道 跡・炭鉱住宅跡など) 地名	立地環境 鉄道 郷土資料館 関連文献 他



資料 5-3 テーマ別関連文化財群の分布

2. ストーリー

(1) 石器づくりの大遺跡群

1) ストーリー

安山岩の一種であるサヌカイトの大型尖頭器が、鬼の鼻山麓の旧石器～縄文時代の遺跡群から大量に発掘された。この地は尖頭器加工の一大生産地であり、これまでに確認された石器原産地遺跡としては東西 2.5 km、南北 3.5 km に広がり、国内最大級の規模を誇る。これらの製作された尖頭器は、他地域でも広く利用されていたと考えられている。

地元児童の石器採取を受けて、昭和 35 年の三年山遺跡・茶園原遺跡の発掘によって発見された大量の石器は、九州における初の旧石器時代の学術調査の成果であり、この発見を契機として昭和 44 年に多久考古学会が発足され、会誌も発刊された。この調査は多久市における本格的な遺跡の発掘調査の始まりといえ、この後、佐賀県内の遺跡調査など多くの埋蔵文化財調査が展開していった。

2) 構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

構成項目	主な文化財	周辺環境	担い手
大型尖頭器の 発見と 旧石器遺跡	三年山遺跡 茶園原遺跡 多久石器原産地遺跡群 ほか同性格の遺跡 大型尖頭器 ほか石器・剥片・石核など	多久町鬼の鼻山麓 北斜面 安山岩	土地所有者 多久市 多久市郷土資料館

3) 現況と課題

【公開と情報発信】

遺跡から発掘された大型尖頭器の一部は、多久市郷土資料館に保管され公開されている。

三年山遺跡は、多久町一体に認定された「新・日本歩く道紀行 100 選文化の道」の案内ポイントの一つとしてマップに搭載され、現地に説明版が設置されている。他の遺跡は現在地中に埋め戻されたまま未公開であり、今後は公開や情報発信が求められる。遺跡の価値が人々に認識されにくい。

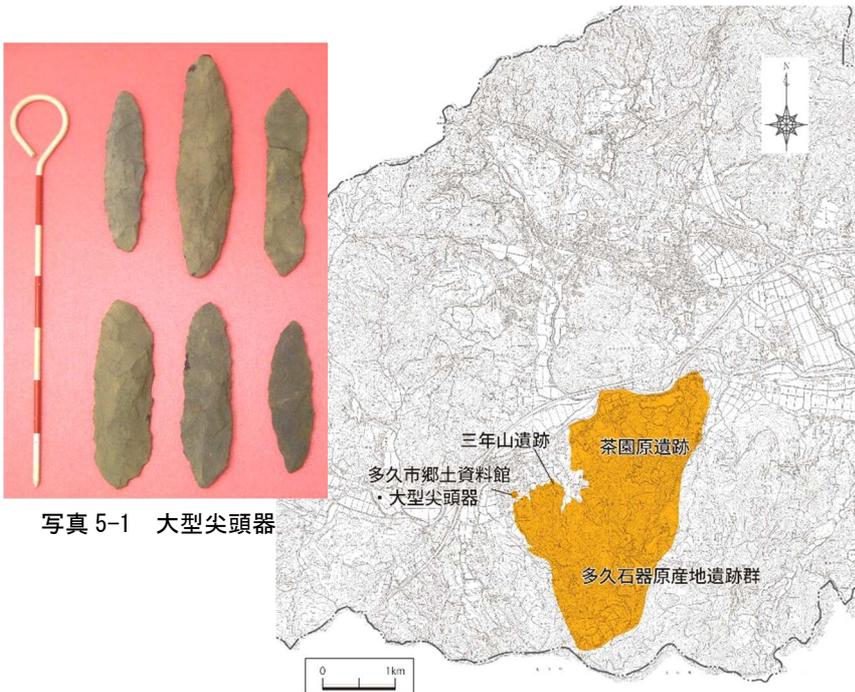


写真 5-1 大型尖頭器

資料 5-4 石器づくりの大遺跡群関連文化財群分布



写真 5-2 茶園原西畑遺跡石器出土状態 (多久市史より)



写真 5-3 多久石器遺跡群の主要遺跡 (多久市史より)

(2) 多久領主の文化遺産

1) ストーリー

多久領主であった前多久氏（鎌倉～安土桃山時代の14代）と後多久氏（安土桃山～明治前期までの11代）は都合約680年間、多久を統治し、領民に多大な影響を与え、現在の多久市の文化遺産の多くが、その治世・文化施策の成果によるものである。この多久領は、飛び地もあったが、多久町を中心にして、ほぼ現在の多久市域に広がっていた。このストーリーを構成する主な文化財の種類は、多岐にわたっており、文化的に価値の高いものが現在残っている。

なお、指定文化財の半数は、石造物であり、これらを含めて市内に所在している大量の石造物は、かつて領内であった砥川地区（現小城市）の石工集団によって製作されたものである。

2) 構成している主な文化財とその周辺環境・担い手

【県】：県指定文化財 【市】：市指定文化財

構成項目	主な文化財等	周辺環境	担い手
多久氏の領民施策	【県】 若宮八幡宮神殿 【市】 高野神社石造肥前鳥居 【市】 若宮八幡宮の三本杉 高野神社 多久神社 天徳天神 中尾神社 渋木妙見社 西山天満宮 西の原大明神 鶴権現社 藤川内天満宮	各神社の 立地環境	神社の所有者と 氏子
	通玄院 大梅寺 福聚寺 延寿寺 聖光寺 専称寺 等覚寺 正善寺 妙覚寺 円通寺	各寺院の 立地環境	寺院の所有者と 壇家
	【市】 前多久家石造供養塔 【市】 龍造寺長信の逆修供養塔 【市】 島原の乱戦死者供養碑 【市】 島原の乱女山多久家戦死者供養碑 【市】 諫早墳	各寺院の 立地環境	所有者 管理者
	横土井跡 羽佐間水道（杵島水道）	農地・里山	管理者
多久氏の文化施策	【国】 肥前陶器窯跡 【県】 保四郎窯跡 【県】 立葵蒔絵螺鈿箏 【市】 諸田賢順の墓	立地環境 郷土資料館・墓地	多久市 所有者・管理者
多久氏の拠点 づくり	梶峰城跡 御屋形跡 龍造寺長信館跡(天理様御屋敷) 御構内（武家屋敷）	立地環境	所有者 管理者
多久氏の歴史資料	【県】 多久家資料及び後藤家文書 【市】 西の原大明神一字一石経一括資料	郷土資料館	所有者 管理者
多久氏ゆかりの 祭り・郷土芸能 ・民話	高野神社春祭り・おくんち 専称寺大つつじ 聖光寺二千年ハス 諸田賢順をしのぶ会	各神社・寺院	祭主催者 参加者
	ヤーホーハイ	開催場所	主催者と演者
	多久太郎宗直と陣内城 林姫哀話 兵糧小路	語りの場	民話の語り部

3) 現況と課題

神社、寺院、石塔、城跡遺跡、屋敷、窯跡、イベント祭り、郷土芸能、伝説と多岐にわたり、その分布も市内全域に広がっている。特に石造物は約3,000基あると思われる、基礎調査の対象だけで約1300基(研究者によっては2700基)を数える。その多くは近世を中心としたもので、領主多久時代である。

【担い手】

所有者・管理者・行事の主体と主催者に関する情報の全体的把握が求められる。

【公開・情報発信】

個別に対応しており、祭りイベントは多久市ホームページに掲載されている。また、多久市郷土資料館に保管されているものは一部公開されている。



写真 5-4 正善寺



写真 5-5 船山から望む多久



写真 5-6 高野神社



写真 5-7 多久家墓地

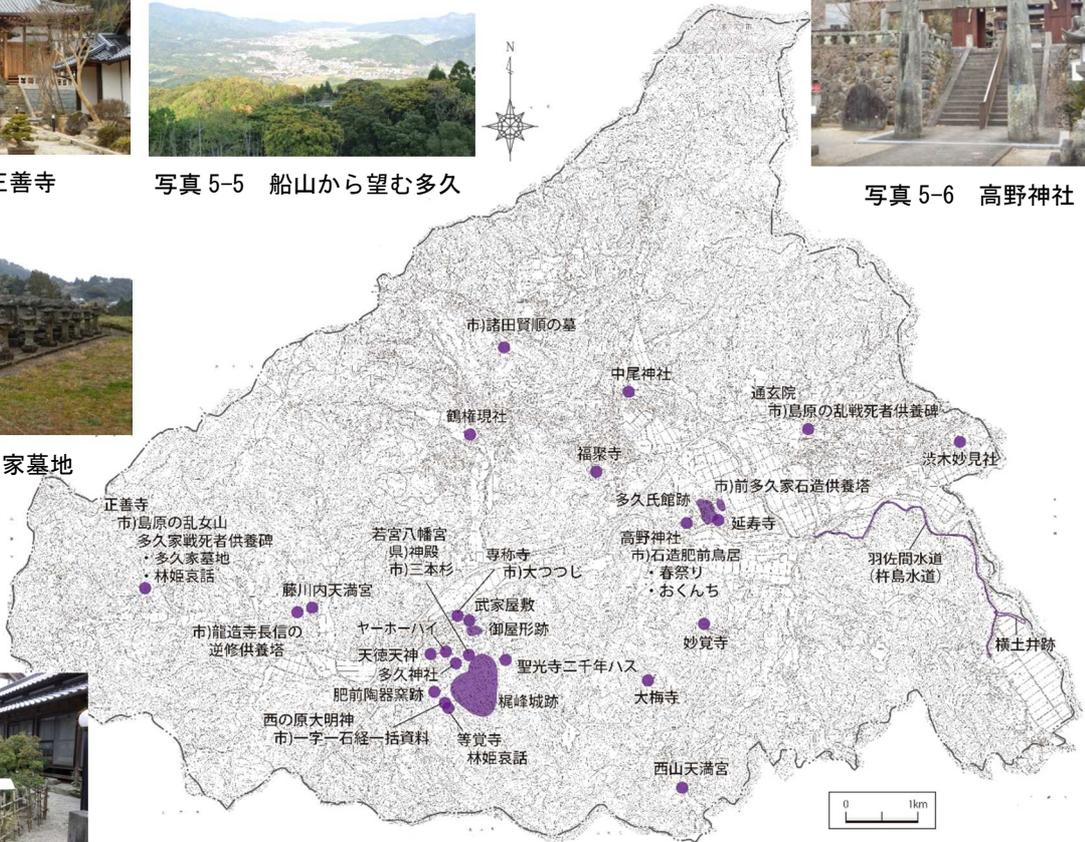


写真 5-8 専称寺の大つつじ

資料 5-5 多久領主の文化遺産関連文化財群の分布



写真 5-9 多久神社



写真 5-10 多久八幡神社



写真 5-11 聖光寺

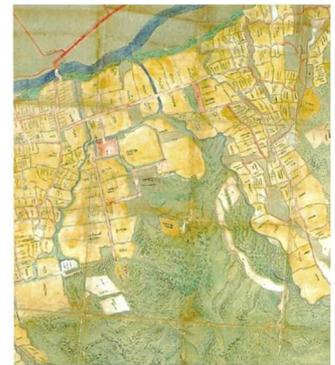


写真 5-15 多久御構内小路絵図



写真 5-12 妙覚寺



写真 5-13 西の原大明神



写真 5-14 一字一石経一括資料



写真 5-16 肥前陶器窯跡



写真 5-17 前多久家石造供養塔



写真 5-18 旧武家屋敷



写真 5-19 梶峰山